

令和6年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	98	学校名	仙台市立将監西小学校	校長名	山田 隆
------	----	-----	------------	-----	------

1 取組のタイトル、テーマ

「エコロジーの心をもって 学校生活を送ろう」

○エネルギーをみんなにそしてクリーンに SDGs 7

○つくる責任・つかう責任 SDGs 12



2 取組の紹介

1) 太陽光が地球環境を救う・・・ペットボトルで水温を上げる (SDGs 7)

特別の施設設備を利用しなくても、毎日の学校生活から地球の環境を守ることが可能なことを、太陽光の力を利用した掃除活動を行うことを通して意識させてきました。ペットボトルに黒ガムテープを巻き、熱吸収率をあげて多少温まった水と水道水をまぜて、掃除行うときに使っています。掃除を通じて、ペットボトルで温まった水が実生活で役に立つことを実体験しました。1年生から実践されているこの活動は6年生まで行われ、西小で継続的に行われている実践です。



2) 持続可能な生産消費形態を確保する (SDGs 12)

各クラスに古紙回収ボックスを配付し、月に一回の委員会活動の際に、ボックスを回収し環境委員会のメンバーが紙の種類ごとに分別し、ビニール紐で結束作業をします。1年生～6年生と特別支援学級2クラスあわせて、8学級分回収します。1回の古紙回収で集められる古紙は、約16キログラムの再生利用可能紙が集まります。それを、ゴミ集積所まで教員と委員とで運び、活動を終了します。

5月から2月までの10か月の活動で、12.8キログラムの再生紙製造に寄与した計算になります。地球が抱えられる資源は有限ですので、子供時代からリサイクルする習慣を身に付けさせることの必要性を感じています。



3 取組の成果 (児童生徒の変容)

朝冷たかった水が、朝から昼にかけて暖かくなり、「あったかーい」と歓声を上げるなど、自然エネルギーを使えば、化石燃料を使わなくても、暖かい水を手に入れられることを実感していました。係活動に取り組む児童は、お昼に温まった水を使い切ると、進んで新しい水をペットボトルに入れ替える姿が見られています。

また、教室で、不要になった紙が出たときに、リサイクルの環境を整える(古紙回収ボックスを準備)ことと、ただ捨てればゴミになるものでも回収ボックスに入れてリサイクルをしようという、児童各々の意志を感じるとともに、実際に分別する姿が多く見られるようになりました。

限られた資源を持続可能なエネルギー活用につなげるには、その社会を維持する生産消費形態を、児童自身に浸透させていくことの必要性を改めて感じました。